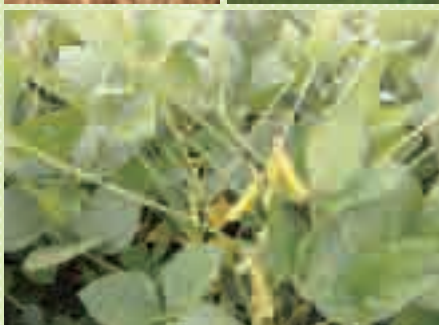
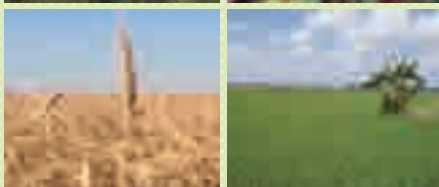
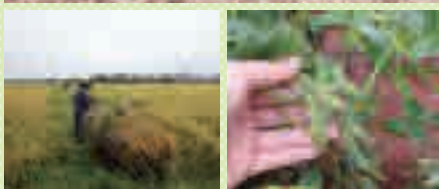


農林水産政策研究所
主任研究官(食料需給分析チーム)
小泉達治

1992年農林水産省入省。以降、米国農務省経済研究所、国連食糧農業機関（FAO）商品貿易部等に勤務。2005年より農林水産政策研究所にてバイオ燃料・気候変動

が食料需給に与える影響等について研究。2011年11月から2015年3月までFAO気候変動・エネルギー・農地保有部に勤務。博士(生物資源科学)

農林水産の政策に役立つ 情報を収集・分析

農林水産省の政策の企画立案に資する調査研究を行う直属の機関として2001年4月に設立されたのが、農林水産政策研究所です。農林水産業の発展のため、内外の情勢の変化に迅速に対応し、さまざまな施策を展開していくには、広く情報を収集し、的確に分析する必要があります。

策研究所は、社会科学系の研究機関として、経済学、法学、社会学など多様なアプローチで調査研究を進めています。行政部局からのニーズに的確に対応した研究を進めるため、「主要国農業戦略研究」「食料サプライチェーン研究」「農業構造・生産主体研究」「農村研究」を重点分野と位置づけたうえで、毎年度、「政策研究実行計画」を立てながら研究を進めており、その成果を行政部局で活かしつつ、インターネットや刊

行物で情報発信したり、セミナーや研究成果報告会を開催しています。
**6000本の方程式で
世界の食料需給を予測**

研究はチーム制により推進されており、2015年度は18チームが編成されています。その一つ食料需給分析チームは独自の分析モデルを用いて世界の食料需給の中長期的な見通しに関する研究を行っています。

に食料の多くを依存している日本では、安定的な確保のため、世界の食料需給を見通すことが不可欠」と言います。農林水産省では2008年度から毎年、農作物や畜産物など20品目について10年後の世界の需給見通しを公表していますが、この予測は、各国の人口動態や経済成長率など複雑な事象を約6000本の方程式でまとめあげるという同チームの精緻な作業から導き出されています。

農林水産政策研究所 10年先を見通す 独自の世界食料需給モデルによる予測分析

文／下境敏弘 写真／島誠（人物）



NEWS

5月14、15日には、東京・日比谷公園で「みどりとふれあうフェスティバル」が開催される(写真はいずれも昨年のも)



「みどりとふれあう フェスティバル」 などイベントが 盛りだくさん

みどりの月間
4月15日～
5月14日



天皇后両陛下のご臨席を仰いで行われた「みどりの式典」の様子(写真は昨年のも)

みどりの学術賞・みどりの式典・みどりの月間行事一覧
<http://www.cao.go.jp/midorisho/>

みどりとふれあうフェスティバル
<http://midorinokanshasai.com/>

「みどりの学術賞」などが 授与される「みどりの式典」

5月4日の国民の祝日「みどりの日」は、国民のみなさんが自然に親しむとともに、その恩恵に感謝し、豊かな心を育む日です。また、4月15日から5月14日までは「みどりの月間」です。この期間内には、全国各地で緑の募金運動が重点的に実施されるほか、「みどりに関するさまざまな行事が開催されます。4月22日には、今年で第10回を迎える「みどりの式典」が東京都内で開催予定です。式典では、「みどりに関する学術上の顕著な功績があつた方を表彰する「みどりの学術賞」や、緑化推進運動の実

施について顕著な功績のあつた方または団体を表彰する「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」の授与式が行われます。今年の「みどりの学術賞」受賞者は、三井昭二(三重大学名誉教授と井上勲(筑波大学特命教授・筑波大学名誉教授)の2名で、日本科学未来館において、6月26日に受賞記念講演会を行うほか、みどりの月間の期間中、「みどりの科学コミュニケーション」が受賞者の研究内容を分かりやすく紹介するイベントも行われる予定です。

子どもから大人まで 楽しめるフェスティバルも

みどりの月間の締めくくりとし

て、5月14、15日に、東京の日比谷公園で「みどりの感謝祭」の「みどりとふれあうフェスティバル」が開催されます。「森の恵みを見て、触れて、食べて、感じる広場」をテーマに、子どもから大人まで楽しめるイベントになっており、昨年は約3万人の方が来場されました。

森や緑に関係する展示や物産展、食べて楽しいフードエリアも充実しています。体験プログラムもさまざまなで、子どもが楽しめるツリークライミング体験や木工教室、大人も楽しめるヨガ教室やネイチャークラフトなどがあります。詳しい内容については右記ホームページからご覧ください。